

キャラクター名  
秋雨 春斗

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
	ブラム=ストーカー				
オプション		年齢	16	性別	男
覚醒	忘却	衝動	闘争	初期侵食率	33 %
出自	双子	経験	敵性組織	邂逅	恩人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	32
肉体	2	1	2			5	行動値	10
感覚	4	0	0			4	(非装備時)	10
精神	2	0	0			2	戦闘移動	15
社会	0	0	1			1	全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志		1	調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
赫き剣	白兵	5r+2		22		
Fulnis Schwert	白兵	9r+2	5	22		コストHP2、命中時HP28回復、C値8
Degen Gefingnis	白兵	9r+2	5	26		コストHP7、命中時HP28回復、C値8

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
思い出の品	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
対抗種	P	N		
秋雨 春佳	P 純愛	N 恐怖		
命の恩人	P	N		
弥生	P 連帯感	N 不安		
アリシア	P 尊敬	N 脅威		
	P 同情	N 同族嫌悪		
	P 感服	N 憐憫		

最大財産P: 2    残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
赫き剣	7	3	マイナー					
効果:	EL*2までHPを消費して攻撃力+消費HP+8の武器を作成							
渴きの主	7	4	メジャー	至近	単体	白兵		
効果:	装甲無視、EL*4点のHP回復							
鮮血の一撃	3	2	メジャー					
効果:	白兵ダイスEL+1追加、HP2消費							
コンセントレイト	2	2	メジャー					
効果:	C値-EL、下限7							
血の宴	1	3	メジャー		範囲選択			
効果:	組み合わせたエフェクトの対象変更							
クイックダッシュ	1	4	セット		自身			
効果:	戦闘移動を行う							
ブラッドバーン	1	4	メジャー				80↑	
効果:	攻撃力+EL*4、HP5消費							
朱色の大斧	1	4	メジャー		単体	白兵	リミット	
効果:	渴きの主とコンボでダメージを与えると攻撃力+EL*4							
日常の代行者	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

古鷹さんの卓用PC

双子の姉、秋雨春佳とともにFHチルドレンとして育てられていた。とある任務において姉とともに出陣するも、姉とは戦場で離れ離れになってしまう。さらにオーヴァード同士の戦いが原因の広範囲の爆発に巻き込まれ、瀕死の重傷を負ってしまった。死を覚悟した春斗の前に現れたのはとあるUGNのエージェント。無抵抗で首を差し出した春斗が次に感じたのは何かが抱きついてくる感触、そして声にならない声だった。春斗の傷を癒やし、介抱してくれた彼（彼女）に感謝の言葉を述べる、その時だった。…春佳が春斗を見つけたのは。弁明しようと春斗が口を開くのと、春佳が攻撃を放ったのは同時であった。思わず身構える春斗だが、いつまで待っても衝撃は発生しない。春斗が受けるはずの衝撃を、彼（彼女）が身を以て受け止めたからだ。倒れ伏す彼（彼女）、思わず駆け寄り、そして駆け寄って初めて見てしまう。愛する姉の瞳を。愛する弟の裏切り-ダブルクロス-、春佳の疑念は確信に変わってしまう。春斗はもうその場にいらなかった。惨めに現実から目を背けることしかできなかった。だが背けた先に待っていたのもまた惨めな現実だった。命の恩人に報いるために尾を振った元FHチルドレンに対して向けられる様々な負の感情。

春斗に残された道はもうなかった。だったら、「春斗」じゃなくなればいい。いつしかそう思い、仮面を被り始めた。「春斗」という仮面を。

次の取得候補